

会報

第 54 号 (2020/3/31)

〒720-0082

広島県福山市木之庄町 4-3-14

Tel&Fax:084-917-5937

Mail:info@crcc-fukuyama.org



Community Renaissance
Research Center

今後の予定について

お知らせ
3月18日予定されていた講演会、「福山の地形のなりたちと自然災害」は、感染予防のため来年度に延期となりました。

コミュニティルネッサンス研究所の新型コロナウイルス対策について

コミュニティルネッサンス研究所では特定非営利活動法人ひろしまNPOセンターから送付された「感染症に関する方針」に準じる事にしました。その方針に則って、関係者と協議して、当NPOで行われる予定だったイベントの開催延期や中止を決めました。今後も日々変化する状況や政府・自治体からの要請に合わせて対応していきたいと思えます。

問い合わせ

NPO法人コミュニティルネッサンス研究所

電話・FAX: 084-917-5937

メール: info@crcc-fukuyama.org

今号の内容

- ・ 味噌作り
- ・ ヤギ、うさぎの飼育について
- ・ 編集後記

※内容は以下に記載

活動報告



味噌作り

2月26日の午前10時より、毎年恒例の「味噌作り」を行いました。新型コロナウイルス蔓延の報道が連日流れる中、まだ学校が一斉休校になる前に、何とか開催することができました。

今年もフリーペーパー『びんまる』のイベント案内に「味噌作り」を掲載していただき、それをご覧になった3名の方が新規で参加されました。他にも毎年来て下さるリピーターの方や、地域の絆の利用者さん、職員さん、そしてコミュニティルネッサンス研究所の会員など、合計14名の参加でした。講師は毎年お世話になっている藤原スエ子さんです。

藤原さんのテキパキとした采配で、味噌作りチームと昼食作りチームに分かれて仕込みと調理スタート。「大豆をしっかりと潰してね。」「上手にできるとよ。いいねいいね。」「ストレスが溜まっている人集合！味噌を桶に投げ入れるよ。」など、まんべんなく

目配りして、優しい声かけをして下さいます。今年の参加者の皆さんはとも手際がよく、いつもより早い11時頃には味噌の仕込みも昼食の支度も終了しました。なかでも地域の絆のある利用者さんは、職員さんやNPOスタッフが声かけをしたわけでもないのに、自主的にコンロの側に立ち、昼食の味噌汁のお味噌を溶き、酢の物の味付けもして下さいました。とても自然な姿でした。きつと常日頃からお料理をやりなれておられたのでしょうか。味付けも濃すぎず薄すぎず絶妙で大変おいしかったです。利用者さんが「自宅でのような生活をされているのか、その一端が垣間見える場面でした。

昨年の味噌作りで仕込んだ味噌が大変おいしく出来たので、昼食の味噌汁で皆さんに味わっていただきました。その他の献立は、皆で握ったおにぎりや藤原さんが差し入れて下さったおかず、金柑のデザートなど。イベント募集のチラシには「簡単な昼食付き」と案内していましたが、出来上がったのは合計9品の豪華な昼食でした。



自らスッとコンロのそばに立ち、手慣れた様子で味噌汁を作る利用者さんの姿が見られました。

さらに時間に余裕があったので、講師の藤原さんの提案で自己紹介の時間を取り、「どこから来られたか」「おいしかった一品は？」など、感想とともに一人ずつ述べていただきました。「初めての味噌作りは楽しかったです。」という声が多く上がり、お気に入りの一品の話で盛り上がりました。

昨年仕込んだ完成品の味噌を今年も商品として販売しましたが、以前から「せっかく手作り体験をした味噌を持ち帰りたい。」「自宅で発酵する様子を見たい。」といった意見をいただけていました。そこで、「はたして持ち帰りに小分けにした味噌がきちんと仕上がるか、実験してみよう!」という事に。いつもの大きな桶と共に、1キログラムの小さな容器にも味噌を仕込んで、試作を行っています。小さな味噌桶と大きな味噌桶、どちらもおいしく仕上がりますように。

「コミュニティルネッサンス研究所の設立の趣旨の一つが「高齢者のできる」を見つけ出す、です。利用者さんは自ら昼食の支度や食器洗いと、それぞれの役割を果たされました。その姿は、「この趣旨そのものであったように感じました。」



和気あいあいとした、昼食の様子。

ヤギが来て10ヶ月

2019年4月1日より、ルネッサンスの事務所の隣に地域の絆の施設内保育所（内閣府による企業主導型保育事業）「ちいきのいえ保育園」が開園しました。その園の保育方針の一つに、保育する子どもたちに動物と命のふれあいをさせたい、ということでヤギやウサギを飼うことになりました。その飼育をする事業が「コミュニティルネッサンス」に委託されたのです。委託された事業内容には、単に動物の飼育管理をするだけでなく、「この生き物たちをハブにして地域作りを考える」という宿題もあります。

昨年春に生まれたヤギ2頭がやって来たのは6月初め。飼育は、日曜祭日を除く毎日午前中は、主に就労継続支援B型の事業をされているASAHIさんをお願いしています。夕方の餌やりの一部と日曜祭日の餌やりは地域福祉センター仁伍とコミュニティホーム仁伍の利用者さんをお願いしています。こうしてヤギやウサギとの付き合いがはじまって10ヶ月が過ぎました。

ここでは、動物の飼育事業の中から見えてきたことを簡単にまとめてみます。



1. 動物とのふれあいの意味…地域作りの視点からASAHIの利用者さん

毎日朝10時過ぎから1時間半かけて、飼育小屋の掃除や餌にする草の調達などをしてくださり、そばの墓地まで散歩して夕方までつないでもらっています。最初はこの仕事に行くのがいやだ、と言っていたASAHIの利用者さんも、来てみると「アニマルセラピーだ!」と喜ばれていました。生き物の世話をするのは人気で、待っている人もある、とはASAHI代表の森嶋（もり）にぶさんの話です。

・保育園の園児たち

いま園児たちは3歳くらいの子どもばかりです。ですから体が大きいヤギは少し怖いようですが、ウサギは近くでなでたり抱いたりしてふれあっています。最近はヤギの綱を持ってしていると直接草をやったりも。保護者の方と登園する子どもたちも、ヤギやウサギを見かけてはにっこり。

・地域の絆の利用者さん

昔ヤギを飼っていた人もあり、喜ばれています。餌やりの時も、食事作りの時の野菜の切れ端などを与えられることも。見方を変えれば、餌やりに飼育小屋まで出かけることは、散歩代わりに運動にもなっているように思います。

・近所の人たち

最初は近所のマンションの方から「うるさい!」という苦情もありました。しかし最近では、登下校途中や仁伍広場に遊びに来た子どもたちが金網越しにヤギを眺めていたり、散歩の途中で犬と飼い主さんが一緒にヤギを眺めたり、私たちとの話も弾みます。

最近では近所の方が「ヤギにやって。」と草を持って来て下さいます。留守の時は入り口前に置いてあります。時々ヤギを眺めたり餌やりにも事務局の子どもさんの訪問も。

グラウンドゴルフの人たちは、コーヒータム終了後保育園の子どもたちとヤギやウサギを眺めて帰られています。

以上、「地域作りのハブの役割を」という大きな目標は緒に就いたばかりです。しかし、なんとなくヤギやウサギの飼育場のそばで、動物たちを眺めながら通りがかりのヒトとも気軽に話ができるようになっていきます。



近所の子もたちとヤギ

2. 生きがい就労…労働の視点から

『コミュニティルネッサンス研究所では、『まちづくりと地域の自立』というブックレット（2014年3月）を出しています。この中で、安川代表は『全ての人間が社会の中で役割を持って生きていくためには、人間の権利としての労働を軸に据える』ことが大切と述べています。また、『近所福祉クリエイター』の酒井保さんは『高齢者の知恵を活かし、そのことを周囲がちゃんと評価することが大切』と述べています。

これまでもこうした観点から、花の水やりなどの仕事づくりを考えてきました。最近の研究では、フレイル予防の点からも労働の持つ意味が見直されはじめ、「生きがい就労」という言葉も出てきています。

今回のヤギの餌やりも地域の絆の利用者さんにお願しました。その中で、気づいたことは次のような点でした。

一つは「祭りのステージで歌う」コーラスの練習に参加される方をコミュニティホーム仁伍に迎えに行きました。そのとき、「どこに連れて行くのか」と聞かれたので、はじめは「いつものコーラスの練習ですよ」と答えても理解されませんでした。そこで、「ヤギの餌をやってもらっているところの近くですよ」というと納得されました。コーラスも楽しいけれど、仕事の印象の方が強く記憶に残るのだなあと感じました。

二点目は、施設の職員さんからの話です。利用者さんの餌やりの仕事にわずかですがお金を支払っています。そのお金で、家族にプレゼントをしたり、自分が欲しいものを購入したりして喜ばれているようです。

これまで、自分の畑を耕してできた野菜を近所の人に配って喜ばれている、という市内の高齢者の話を聞いたことがあります。今回の餌やりも、広い意味では農業かと思えます。

これからも高齢者の労働と農業の持つ意味を「高齢者資源を利用するコミュニティづくり」の視点から少し考えて見たいと思います。（文責 加納）

編集後記



新型コロナウイルス関連ニュースが流れる日々が続きますが皆様お元気でお過ごしでしょうか。

我が家でも高1と中1の子どもたちが長い長い春休みを過ごしています。もう大きいので留守番も任せられるし、家事も時々手伝ってくれて助かっています。普段は学校に部活に塾に習い事に…と忙しい子どもたちも、「こんなに暇なのは今後の人生もう無いかも！」とのびのびと羽を伸ばしています。趣味のプラモデル作り、お菓子作り、部屋の片付け（まだ途中）、オンラインでのトレーニングの受講（ZOOMというビデオ会議用アプリを使用し、自宅でレッスンが受けられます）、ルービックキューブ攻略法の研究などなど…最近では、高校生の兄はパソコンの簡易3Dソフトを使ってプラモデルの設計に取り組んでいます。「長期休暇を有効活用した、将来のための勉強！」と本人は主張しますが、宿題は全くの手付かず。少しは勉強してほしい母です。（兼）

NPOへのお便り募集!



感染予防で引きこもりがちの毎日ですが、どのように過ごされていますか。普段考えていること、工夫していること、心がけていることなど、何でも結構です。TEL・FAX、又はメールアドレスにお寄せ下さい。ニュースのご感想・ご意見もお待ちしております。

ある日の夕方ヤギを迎えに行った時
のこと。中国新聞の記者さんが偶然通り
かかって、写真を撮られていました。その
後NPOでコローを飲みながら保育園
でヤギやウサギを飼育している目的や、
地域の絆の代表理事の将来への夢などを
取材されました。目を改めて保育園児
や利用者さんの写真を撮りに来られま
した。その記事が、これです。



3月19日に中国新聞に掲載された記事



ヤギと触れ合うお年寄りと園児

高齢者と子ども笑顔
ヤギ飼育触れ合い育む

「メエー」。鳴き声が聞
草を食べていた。雑草が伸
こえてきたのは、福山市の
共用臺地の中からだ。木之
だけでなく、高齢者と子ど
もたちのつなぎ役として大
道に入ると、2頭のヤギが
事な役目を担っている。

高木泰枝さん(88)もその一
人。しわしわの手で、園児
の小山風斗ちゃん(3)たち
の手を握り、「ヤギさん
かわいいね」と声を掛けた。
「ゆい子」といって自然に元
気が出る。抱っこしてあげ
たいわ」と声を張り、腰を
伸ばした。(湯浅梨奈)

飼い主は、町内で保育園
や高齢者向け施設を営むN
PO法人「地域の絆」。動
物と触れ合うことで園児に
豊かな心を育んでもらおう
と、昨年の月に飼いはじめた。
朝晩は園庭で世話をし、園
児が餌を与える。日中は高
齢者施設の利用者が、日々
ツツと一緒に臺地を散歩
する。
「ヤギが来てから、皆さ
んの表情がさらに柔らかな
んです」。施設の管理者山
下法子さん(46)もつれし
う。世話をきっかけに、利
用者が子どもと触れ合う機
会が増えたからという。